



【基本施策の目的】

市外からより多くの人と企業を呼び込み、雇用の拡大にも結び付くよう、小牧市の強みや特性を活かしながら、バランスのとれた足腰の強い産業構造を構築します。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
大	基本施策の指標値は横ばいもしくは、改善傾向にあるものの、自治体経営の安定のために自主財源の確保は喫緊の課題である。 企業誘致や市内企業への支援の取組は、法人市民税の増収に直接繋がるため、今後も積極的に取組む予定であり、本年度は市内中小企業支援をさらに充実するため、その拠点となる「こまき新産業振興センター」の開設準備に取組み、平成31年4月の開設を目指します。


【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
市内総生産額の県内順位	位	実績	8 (H22年)	8 (H24年)	9 (H25年)	8 (H26年)	8 (H27年)	H26(H24)実績からH27(H25)実績にかけて県内順位は1つ下がった。H28(H26)実績にかけては、再度県内順位が上がり、H29は横ばいで推移。目指す方向性とは不一致で、直近で横ばいとなっている。	市内大手企業の業況や、今後の景気動向などによるが横ばい傾向が続くと見込まれる。引き続き、市内企業への支援や市内への企業誘致を推進し、市内総生産額の上昇を目指す。
		目指す方向性							
従業者数	人	実績	51,804 (H24年)	—	53,093 (H26年)	—	52,120 (H28年)	市内従業者数はH27と比較すると微減となったが、基準値からは増加し、目指す方向性と一致している。事業所数は増加傾向にあるが、1事業所当の従業員数は減している。景気動向による増減幅が大きい。今後は横ばいか微減傾向が見込まれる。	今後、企業経営の効率化が進んだ場合、従業員数が減少することも想定される。引き続き、雇用の確保につながる市内への企業誘致の推進、既存企業への支援等に加え、平成31年4月のこまき新産業振興センターによる能動的支援の推進による産業基盤形成により、市内従業者数増を目指す。
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	・小売商業支援事業については、既存商店街などの維持、活性化のために充てられている部分が多く、市としてもこれを継続していく必要があるため、削減余地は大きくないと考えるが、商店街の街路灯のLED化が進み、補助対象である電灯料が削減されていることなどから、商業団体等補助金や消耗品費などを精査していく。
実施計画事業	資源投入の考え方	・新産業創出事業は、市内企業の操業支援に加え、次世代成長産業に関する支援等と、平成31年4月に開設するこまき新産業振興センターによる能動的企業支援により支援制度の活用件数を拡大する。 ・こまき新産業振興センター施設整備事業は、持続的な産業・雇用・財政の基盤形成をめざし、平成31年4月に開設を予定している「こまき新産業振興センター」の効率的な管理運用を推進するため、施設の整備を実施する。 ・こまき新産業振興センター運営事業は、「こまき新産業振興センター」の運営にあたる「小牧市産業クラスター推進協会」の運営経費の補助を実施する。

展開方向1	名称	工業用地の整備と企業誘致を推進します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○市内への企業誘致や投資を促進するとともに、新たな成長産業を育成・誘致します。								
	所管課	企業立地推進課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
新規進出企業の累計数	社	実績	12 (H23年)	20	24	28	29	支援制度の活用に向け、積極的に企業を訪問し、制度の周知や情報交換により、設備投資の際に適切なサポートが行えたことにより、実績は増加している。	今後も、企業訪問等による情報収集に努め、適切なサポートを実施することにより、新規立地の促進に努める。また、新たな設備投資や新規立地促進に向け、社会経済情勢を注視しながら支援制度について見直しを図る。	
		目指す方向性	↗							
1事業所あたり製造品出荷額等の県内順位	位	実績	19 (H23年)	20 (H25年)	19 (H26年)	—	21 (H27年)	事業所数は比較的堅調に推移しているが、製造出荷額は県内21位と微減した。直近では、概ね横ばいの状態が継続している。	支援制度の周知を図り、有効に活用してもらうことにより、設備投資、工場拡張等をさらに積極的に取り組んでもらい、製造品出荷額の向上を図る。	
		目指す方向性	↗							
展開方向2	名称	既存商工業の経営を支援します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○地域経済を支える中小企業の経営基盤を安定、成長させます。 ○地元商店街における集客力を向上させ、消費を拡大させます。								
	所管課	商工振興課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
これからも小牧市で操業を続けたいと思う企業の割合	%	実績	94.3 (H26年度)	↗	94.9	95.1	95.8	H28実績値は上昇し、目指すべき方向性と一致。平成26年に拡充した補助制度の周知とともに、増加傾向を維持している。	企業に対する各種支援制度のPRを継続して行い補助制度の活用を高める。直近では補助制度等に大きな変更がないため、指標は同レベルで推移していくと考えられる。	
		目指す方向性	↗							
小牧市の産業支援策について、他市と比べ充実していると思う企業の割合	%	実績	75.6 (H26年度)	↗	75.7	69.6	69.7	平成26年5月に企業を支援するための企業新展開支援プログラムを策定しており、プログラムによる支援策や補助制度を拡充したことでH27は上昇したが、3年が経過し、補助の活用のない企業においては市の支援策に対する印象が薄れH28は指標の低下につながったと考える。	引き続き、企業に対する各種支援制度のPRを行って補助制度の活用を高めることに加え、補助制度の見直しの実施、支援の拠点となる「こまき新産業振興センター」のへ平成31年4月設立等により再度上昇を目指す。	
		目指す方向性	↗							

展開方向3	名称	起業・創業希望者を支援します							
	目的	○市内で新たに起業、創業を行う人々への支援をします。							
	所管課	商工振興課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
起業(創業)者数(累計)	人	実績	5	10	15	17	21	<p>創業者数は順調に増加し目指す方向と一致している。平成28年度中に産業競争力強化法による「創業支援事業計画」を策定し認定を受け、同計画に基づき地域の連携事業者と協力しながら創業支援を継続している。</p>	<p>創業支援事業計画に基づき引き続き創業者数の増加に努めるため増加していく見通しである。</p>
		目指す方向性							
展開方向4	名称	就職希望者や未就労者の就労を支援します							
	目的	○ふるさとハローワークなどの関係機関との連携・協力のもと、就職希望者や未就労者の就労を支援します。 ○市内中小企業で働く人々の福利厚生を支援します。							
	所管課	商工振興課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
就職者数	人	実績	437	419	345	353	341	<p>指標はふるさとハローワークを通じた就職者数であるが、減少傾向が続き、H28実績では若干上を向いたが、引続き方向性は逆を向いている。これは景気の動向により実績値が影響される面が強く、現在、景気が良くなっているため、指標数値は減少傾向となっている。</p>	<p>本来は、全体の雇用・就職者数が底上げされることが望ましく、必ずしも職安を通じた件数増を求めるものではないが、企業の採用は景気に左右されるなど不安定な面もあり、最後の切り所としての職安はニーズも強いことから、引続きふるさとハローワークの周知に努め、様々な媒体を活用した求人情報の提供や職業相談、職業紹介等を行っていく。</p>
		目指す方向性	